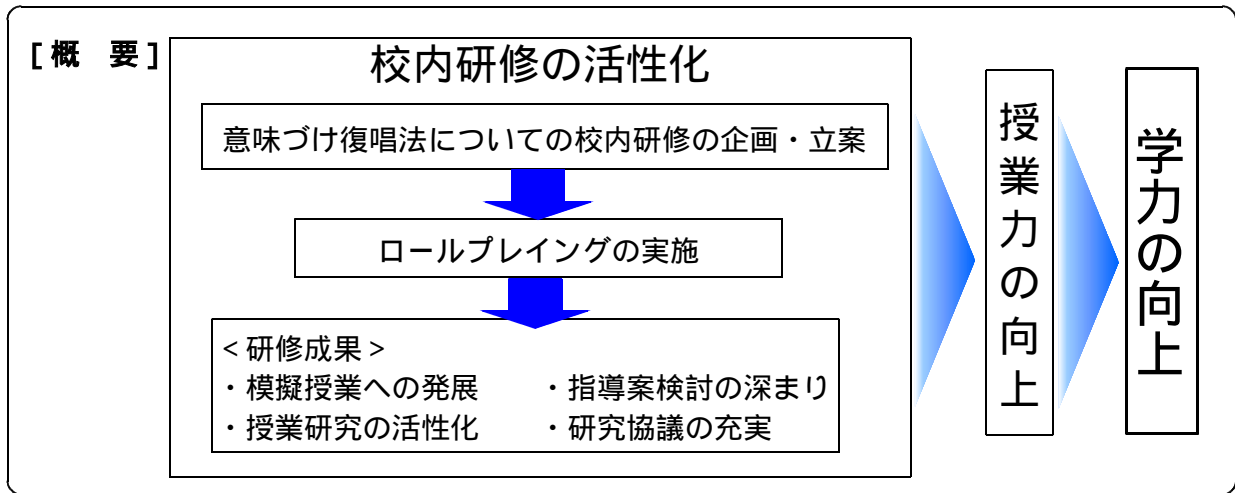


1 意味づけ復唱法を通して研修を活性化させる



意味づけ復唱法とは何か

意味づけ復唱法は、愛知教育大学の志水廣教授が「わかる」「できる」授業を保障する教師の授業技術として提唱されているものである。

子どもが創り上げていくような授業を進めるには、子どもとのかかわり合いを大切にしたい授業がなされなくてはならない。

子どものコミュニケーションを円滑にして、話し合いを練り上げ、授業のねらいにせまるためには、教師に、子どもの発言を的確につかみ、その発言を生かすように切り返す技術が重要になる。その技術の一つが意味づけ復唱法である。

意味づけ復唱法とは、教師または子どもが、お互いの発言を復唱することによって、授業の内容の確認、補完、焦点化、共有、記憶に役立てることである。

～ 正方形の定義づけを行う場面での実践例～

教：正方形とはどんな図形でしたか。
 児：辺の長さがみんな同じ四角形です。
 教：いま、何と言いましたか。
 児他：辺の長さがみんな同じ四角形。
 教：なるほど。辺の長さがみんな同じ四角形が正方形なんですね。では先生が正方形をかいてみます。

ひし形を板書する。

辺の長さがみんな同じ四角形をかきました。これが正方形ですね。

児：付け加えがあります。辺の長さがみんな同じで、かどがみんな直角の四角形です。

教：いま、何と言いましたか。

児他：辺の長さがみんな同じで、かどがみんな直角の四角形。

教：なるほど、辺の長さがみんな同じで、かどがみんな直角の四角形を正方形と言うのですね。かんべきです。

教師が子どもの言葉を復唱することで、子どもは安心する。また、子どもに復唱させる場合、友だちの発言を聞いていないと復唱はできない。このことによって、子どもの聞く力を育てることになる。

【参考文献】「授業力アップ志水塾ハンドブック」

意味づけ復唱法を校内研修で取り上げるにあたって、そのよさを共通理解する

意味づけ復唱法は学力向上のための学習規律の手立てとして効果的な指導方法であり、校内研修の内容として取りあげたい。

教員がそのよさを感じ取らせるためには、意味

づけ復唱法の実際の様子を授業公開するなど実際に見る機会を設けることが大切である。また、意味づけ復唱法の模擬体験を行うなど、意味づけ復唱法のよさを体感できる場を設定し、全教員が共通理解できるとより効果的である。

校内研修でロールプレイングを実施する

校内研修に意味づけ復唱法を取り入れる場合、まず初めに意味づけ復唱法の基本理論を学び、その後、実際に教師役と児童生徒役となってロールプレイングを行う。

例えば、5人1組のグループでロールプレイングを行う場合、一人が教師、他の教員が児童生徒役となり、教師役を交代で全教員が行うこととする。児童生徒役となった教員が教師役の教員を困らせようと、あの手この手を考えて回答や質問をすることで、和気あいあいとした雰囲気の中で発言の仕方や内容を工夫しながら研修をすすめることができる。

研修時間としては、半日から1日程度の時間が必要であり、夏期休業中の研修が妥当と思われる。A校では、指導者を近隣の広島県、福岡県で行われている「授業力アップ志水塾」の講師に依頼し、午前9時から午後3時までの1日研修を計画した。たいへん充実した研修となり、講師の先生に対する質疑が時間を延長して行われた。



意味づけ復唱法ロールプレイング

学校規模としては、職員数5名程度の小規模校でも研修が可能であり、学級数7、職員数12名程度の中規模校でも、さらに職員数が多い大規模校でも、グループの数を増やすことでほぼ同じ内容の研修を行うことができる。また、校内の同学

年研修や低・中・高学年別研修等にも応用して教材研究に生かすことができる。

模擬授業をロールプレイングの形態で行う

意味づけ復唱法のロールプレイングは、教師が児童生徒役となり授業を行う点で、模擬授業と共通点が多い。

模擬授業は、ともすれば敬遠されがちであり、教員の協力がないと全教員が行うのは難しい部分もある。しかし、意味づけ復唱法でのロールプレイングを和気あいあいとした雰囲気の中で体験したことで、模擬授業への抵抗感が低くなり、スムーズに行うことが可能となる。

例えば、模擬授業を意味づけ復唱法でのロールプレイングと同様の形態で行うことも十分可能であり、教員が活発に発言しやすく、指導案検討の上でも実際に問答しながら児童生徒の反応を予想したり、学びの意識の流れをつかむために大いに役立つものである。

意味づけ復唱法の視点で研究協議を充実させる

意味づけ復唱法が共通理解できていれば、授業研究で意味づけ復唱法を視点としての研究協議を行うこともできる。

授業の中の実際に行われた意味づけ復唱法についての活用のあり方は、効果的であったか、指導技術はどうであったか、自分だったらこのような使い方をしていたなど、意味づけ復唱法を視点として、先生方が発言しやすい雰囲気をつくり出すことができる。

意味づけ復唱法を様々な場面で活用する

児童生徒の学力向上のための授業技術の一つの方法として提唱されている意味づけ復唱法であるが、授業に限らず、学級活動や朝の会、帰りの会などでも活用することが可能である。

教師一人ひとりの指導技術が向上し、子どもたちの学力の向上、学校生活の充実へとつながってほしいものである。